



特集

# 信州なかのギャラリー フォトコンテスト

『わたしのなかの』なかの  
〜探す楽しみ、知る喜び〜

写真投稿共有アプリケーション『インスタグラム』の投稿から作品を募集とした「信州なかのギャラリーフォトコンテスト」。「わたしのなかの」なかの“〜探す楽しみ、知る喜び〜”をテーマに開催した結果、合計161作品の応募がありました。その中から写真家の高木こずえさんやインフルエンサーの中島侑子さんなどの審査により、9点の作品が入選しました。

今回入選しなかった応募作品も投稿者それぞれが感じる中野市の風景が表現され、インスタグラム利用者の誰も見ることが出来る「信州なかの魅力発信」です。

近年は、今回のフォトコンテストのような企画を通して、市の情報や魅力を多くの人の力を貸りて、世界に発信していくことが可能な時代となっています。

最終審査員（高木こずえさん）  
総評

応募作品が前の審査を経て私の手元に届いた時、作品の点数はかなり絞られていました。多くの審査員が同じ作品を選んでいたからです。つまり、みんなが共通して良いと感じる写真がいくつもあったということです。そのポイントは何だったのかと考えると、「中野市の魅力が世界に伝わる作品か」「訪れたり、観たり、体験したりしてみたくなる作品か」という審査基準を踏まえ、最後の審査をさせていただきました。

入賞者の皆さま、おめでとうございます。





# グランプリ

受賞アカウント名

fukukita\_room

【受賞コメント】

この度は、多くの写真の中からグランプリに選んでいただき、とてもうれしいです。ありがとうございます。  
春、高梨城址へ行くと、満開の桜が迎えてくれました。私たちだけでなく、写真を皆さんが撮っていたり、ピクニックをしたりしていました。とても素敵なわたしのなかの“なかの”です。



【高木こずえさんコメント】

心なごむ春の光景ですが、人物ではなく手前の桜の方にピントがあっっています。人の輪郭はぼやけて特定の誰かという枠を外れ、見る人はより抽象的なイメージを受けとります。自身や身近な人、あるいはその将来の姿を重ねるかもしれません。こういう何気ない穏やかさを中野市の魅力として感じる人は多いのではないのでしょうか。